

WOCナースは みんなやってる MDRPU対策

座学編

～ 医療機器別に わかるポイント解説 ～

岡本 陽子 さん

三和会りんくう永山病院
皮膚・排泄ケア認定看護師

医真会八尾病院（現・医真会八尾総合病院）の循環器病棟を経て、松原徳洲会病院の心臓外科・循環器病棟にて勤務。
その後、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得し、WOCナースとして同病院に10年間勤務。
2020年より三和会りんくう永山病院の療養病棟にて師長を務める。



実演も含めて
動画で詳しく解説



【いつでも無料】
セミナー動画はこちら



2016年頃から日本褥瘡学会によってMDRPUベストプラクティスの発行や啓蒙活動用ポスターの制作・配布がおこなわれるなど、昨今、医療・介護の現場ではMDRPU（医療関連機器圧迫創傷）の対策がすすんでいます。

急性期医療では認知がすすんでいるMDRPUですが、慢性期や介護の現場ではMDRPUという言葉聞いたことがない方々もまだ多くおられると聞いています。

そこで、今回はMDRPUと言われる創傷を初めて聞いた・知ったという方にも、わかりやすく説明していきたいと思えます。

MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）とは？

MDRPUを一言で言うと「装着している医療関連機器の圧迫により発生する創傷」です。

ここでのポイントは、MDRPUは“医療機器”だけでなく、“医療に関連する様々な機器”で発生するということです。

医療関連機器圧迫創傷と名付けられた理由はそこにあります。

例をあげるとNPPVマスク、弾性ストッキング、酸素マスクなどの法令で定められた医療機器の他にも、抑制帯やベッド柵の圧迫によって発生する創傷もMDRPUです。

◆ 下記のような医療に関連する様々な機器で発生する創傷がMDRPU ◆

医療機器



〈 NPPVマスク 〉



〈 弾性ストッキング 〉

法令上の医療機器ではない



〈 ベッド柵 〉



MDRPUの発生要因

MDRPUが発生する要因は複雑です。下記のように様々な要因が絡まりあっています。

MDRPUの様々な発生要因

- ・機器のサイズ・形状の不一致
- ・機器の情報不足
- ・フィッティング
- ・外力
- ・低栄養
- ・湿潤
- ・皮膚の菲薄化
- ・循環不全
- ・浮腫
- ・感覚・知覚・認知の低下
- ・機器装着部の軟骨・骨・関節などの突出
- ・機器装着部の湿潤

◆ 発生要因はまず『個体要因』と『機器要因』に分けて考える ◆

これらの要因全てに考えを巡らせて対応しようとしても何から手を付けていいのかわからなくなってしまうでしょう。そんな時は、MDRPU発生要因を患者側に焦点を当てた『個体要因』と、機器側に焦点を当てた『機器要因』に分けて考えてみましょう。まずはMDRPUの発生要因には個体要因、機器要因があることをしっかりと理解することが、後で説明するケアの流れを考える際にとても役立ちます。

ではまず『個体要因』とは何かを説明します。

先に述べたように、患者側に焦点を当てた MDRPU発生要因が個体要因です。

例えば、皮膚が薄かったり、循環不全があったり、わかりやすいところでは、浮腫や低栄養などがそれにあたります。このような患者が抱える個別の症状は MDRPU 発生の要因となります。

次に機器側に焦点を当てた『機器要因』としては、機器のサイズや形状の不一致、また機器の情報不足などがあげられます。サイズや形状が患者に合っていないければ容易にMDRPUは発生してしまいますし、機器の注意事項の情報や患者個々における機器とのフィッティング情報の共有がスタッフ間で十分になされていない場合も MDRPU 発生の要因になります。

これら『個体要因』と『機器要因』に対して、『適切なケア』というアクションを加えて発生要因を取りのぞくことが、MDRPU 対策の基本となります。

まずはこのシンプルな構図をしっかりと頭に入れておきましょう。

個体要因

皮膚の菲薄化
循環不全
浮腫
低栄養 など

機器要因

機器のサイズや
形状の不一致
機器の情報不足 など



適切なケア

ケアの流れと具体策

では実際に適切なケアを行うためにはどんな時に、どのようなチェックをし、どんな対策を行えばよいでしょうか。ここではまずケアの流れを**機器の装着前と装着時と装着後の3段階に分けて**考えてみましょう。



◆ 機器『装着前』のケア ◆

機器装着前には、「**個体要因**」と「**機器要因**」について現状を把握し、対策の計画を立てていきます。

まず**個体要因**のリスクを正しく把握しましょう。皮膚は薄くありませんか？循環不全はありませんか？浮腫はありませんか？栄養状態はどうか？などをチェックしていきます。

次に**機器要因**をチェックしていきます。機器のサイズは合っているでしょうか？形状は患者に適していますか？形状やサイズがどうしても合わない場合などは、そのことをスタッフ間で情報共有し異常の早期発見ができるようにしましょう。

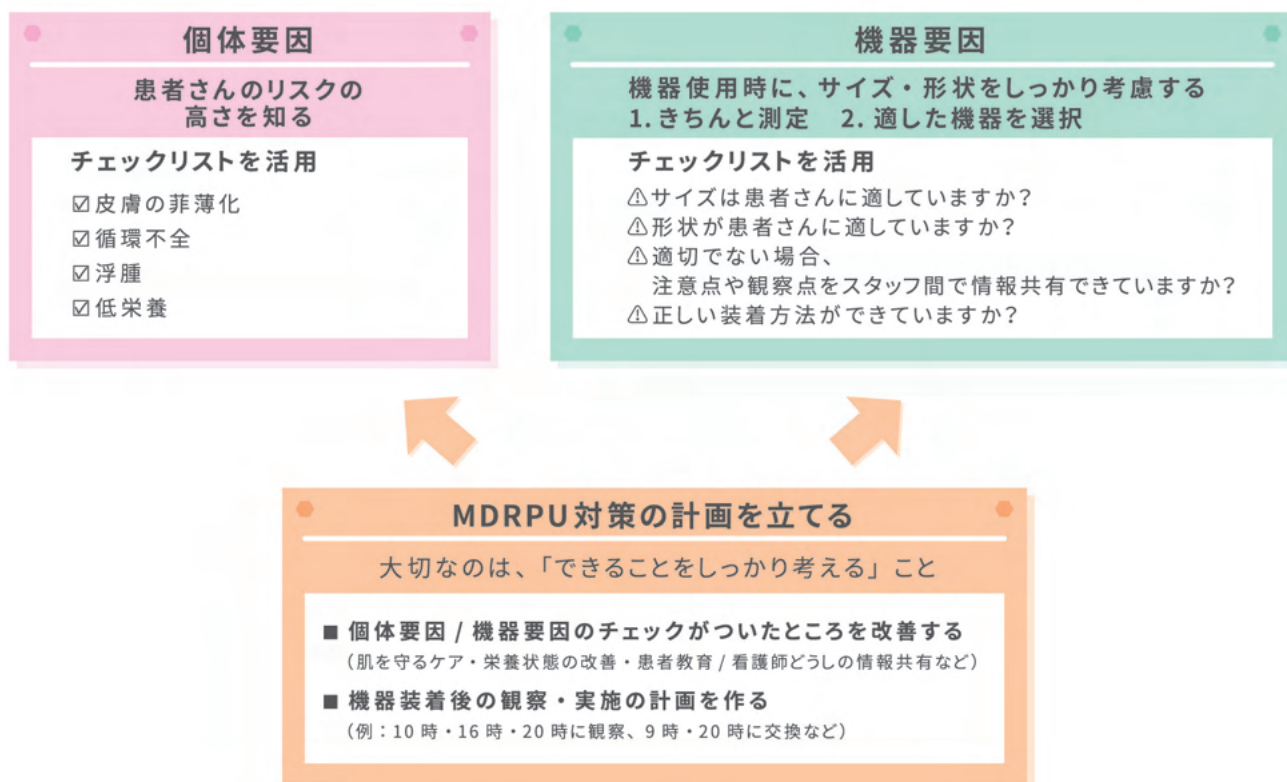
また、サイズや形状が患者に合っても装着方法が間違っていると、MDRPUが発生します。正しい装着方法できているかをチェックすることも大切です。漏れないようにチェックリストなどを作成してもよいですね。

最後に、洗い出した問題点を元に、MDRPU対策としてどのようなケアを行うかの計画を立てていきましょう。

大切なのは、できることをしっかり考えることです。

先ほどチェックした**個体要因**と**機器要因**で課題があったところを改善する方法を考えましょう。具体的には肌を守るケアや看護師どうしの情報共有などがあります。

機器装着後の観察・ケア実施の計画も作りましょう。観察やケア実施のタイミングは、10時・16時・20時など、できる範囲で具体的な時刻を決めることもおすすめです。時刻を決めておいたほうが、器具装着の経過時間に偏りが少なく、良い場合もあります。



◆ 機器『装着時』のケア ◆

次に装着時のケアですが、正しくフィッティングすることがとても重要です。これについては機器によって方法が異なるので“実演編（別紙）”で機器別にポイントを解説します。

◆ 機器『装着後』のケア ◆

最後は機器の『装着後』のケアです。装着後は、皮膚の状態を定期的に観察し、発赤などを発見したらすぐに対処することが大切です。定期的な観察は1日2～3回を推奨します。

しかしながら、個体要因や機器要因に対する予防ケアをしっかりと行ってもMDRPUが発生してしまう事は少なくありません。そんな時は、外力低減のためにクッション材などを活用することを検討し、少しでも患者さんの負担が軽減するようにケアすることも必要です。

また、発赤や皮膚損傷が発生した場合の対処法としては、その機器など原因となる物を少しでも装着しなくて良い時間・除去できる時間がないか検討してみても良いかもしれません。

例えば、骨折時のギブスなら、医師に相談すると一部をカットしてくれることもあります。

しっかり観察する

皮膚の状態を定期的に観察し、
発赤などを発見したらすぐに対処する

- 外力を低減することができないか？
（再フィッティングやクッション材による外力低減ケアを検討）
- 機器を使わない時間を作れないか？
（NPPV マスクであれば、数十分間～数時間外せないか相談）
- 機器が当たる場所を除去することはできないか？
（骨折時のギブスであれば、一部をカットできないか相談）

MDRPU対策のまとめ

ここまで、「MDRPU とは何か？」から、その発生要因と、発生要因に基づいたケアの流れまでを説明してきました。あらためてポイントをまとめると次のようになります。

Point

- MDRPUを予防するには、「**個体要因**」と「**機器要因**」両方をケアすることが大切。
- ケアの流れは、機器の「**装着前**」「**装着時**」「**装着後**」の3段階で考える。
- **装着時はフィッティングが、装着後は観察が大切。観察を定期的に行い、問題があれば再フィッティングやクッション材などによる外力低減ケアを行う。**
- それでも問題があるときは、その機器の使用を一時的にでも中止できないか検討する。

機器ごとのフィッティングや観察ポイントは“実演編”で解説していますので、ご興味があればそちらにも目を通してみてください。

テープが医療にできること、もっと。

skinix
www.skinix.jp

株式会社 共和 メディカルグループ

大阪本社:〒557-0051 大阪市西成区橋3-20-28
TEL:06-6658-8217
FAX:06-6658-8101

東京支店:〒135-0016 東京都江東区東陽5-29-16
TEL:03-5634-3843
FAX:03-5634-3845

実演も含めて
動画で詳しく解説



【いつでも無料】
セミナー動画はこちら

